

道の駅 魅力さまざま

日本海
主義

現在、全国で1千を超える「道の駅」。ドライブの間の一休みだけではなく、先人の歩みに思いをはせ、心もおなかも満たせる道の駅が、日本海側にもたくさんありました。

弾圧と抵抗 歴史の跡

■石川・一向一揆の里

今も浄土真宗が全国有数の勢力を誇り「真宗王国」と呼ばれる北陸。「百姓の持ちたる国」と名高い自治的な体制を打ち立てた加賀の一向宗徒は1582(天正10)年、壮絶な戦闘の果てに時の権力に敗れた。石川県の旧鳥越村(現白山市出合町)の道の駅「一向一揆の里」では弾圧と抵抗の歴史に思いをはせられる。

地ビール工場

■富山・うなづき

富山の代表的な温泉地・宇奈月温泉。黒部川の電源開発に合わせ、大正時代に開湯した。険しい山を切り開いた苦難の歴史を刻む地に近い道の駅「うなづき」は、地ビールの生産工場でもある。

■鳥根・キララ多伎

鳥根県出雲市多伎町の道の駅「キララ多伎」では、奈良時代に編纂された出雲国風土記の世界に近づける。風土記に登場する国引き神話で、海のかなたから土地を引き寄せた「綱」とされる「菌の長浜」の海岸線が一望できる。

神話の海岸 夕日が自慢

銅色にきらめくビールの貯蔵タンクをガラス越しに眺めながら、食事を楽しめる。年間約10万リットル製造するビールは、日本地ビール協会主催の国際ビール

や黒部ダムに代わる新しい地域の顔になった。これからの季節、道の駅での一休みついでにグイッといたるところだが、担当者は「車を運転する人は我慢してください」。

近くの水水平線に沈む夕日。「日本の夕陽百選」に選ばれ、今年4月に認定された日本遺産「日が沈む聖地出雲」の範囲にも含まれる。1階フロアで夕日を眺める人々のシルエットを見ながら、古代の人もこの夕日を……と思い巡らすのもこの楽しみ方だ。

恐竜お出迎え

■福井・九頭竜

福井県大野市にある道の駅「九頭竜」の一角には、大きな恐竜の親子のミニチュメントが立つ。親は体長12歳、高さ4歳、子どもは体長5歳、高さ2・8歳。10分おきに「グオー」と大きな雄たけびを上げる。地元の大野市和泉地区ではかつて、ティラノサウルス類の歯やアンモナイトの化石が発見された。親子は道の駅のシンボルともなる存在だが、毎年11月下旬から翌年4月初旬ごろまでは姿を消す。雪の重みから守るため、別の場所に一時避難するためだ。「冬眠」を終えた親子は今年も4月6日に姿を現した。

縁結びをPR

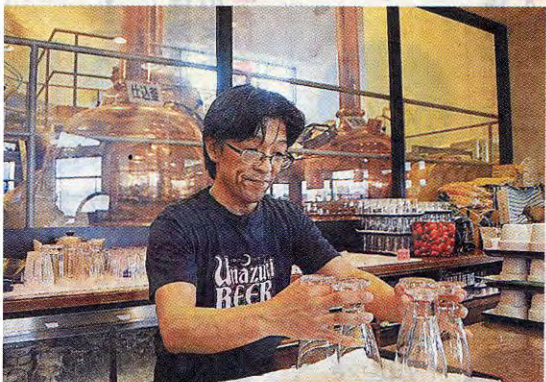
■鳥取・白うさぎ

日本海に面した鳥取市北部の白兔海岸。大国主命と八上姫の縁を取り持つ白うさぎを描いた神話「因幡の白兔」の舞台とされ、そばに白兔神社がある。この地の道の駅「神話の里白うさぎ」は縁結びをPR。近年は「恋人の聖地」としても知られている。

直売所のコーナーでは、地元産のマイタケが入ったお弁当が人気。地元産の新鮮な野菜もあり、支配人の稲郷一朗さん(51)は「季節を感じる食材をぜひ味わってほしい」と話す。



「鳥越一向一揆歴史館」にあるジオラマ。道の駅や城跡のある里を再現している=白山市出合町



ビアレストランからはガラス越しにビールタンクを眺められる=富山県黒部市宇奈月町下立

駅の縁結びグッズの一つが「因幡の白兔恋物語すらっぶ」(税込み515円)。大国主命の人形が付く、八上姫の故郷とされる鳥取市可原町の道の駅「青